

京都大学
人種未来形
発信まんが

はやのん理系漫画制作室

第3回
「人間をどう
分類するのか」

私は文化人類学……
人種・エスニシティ論や
移民について研究しています

この分野には
たとえば

「人間を
どう分類するのか」

という問いが
あります



人文科学研究所
竹沢泰子教授

知ってますよ!
白人とか
黒人とか……

日本人は
黄色人種
ですよ?

ところが
生物学的には人間を
「人種」と言って
キツパリと
種類分けすることは
できないんです

「人種という
ものはない」と
言ったら……
びっくりしますか?

エ〜ツ!?

たしかに
肌の色や目の色
髪の色などの
体の特徴の違いは
あるのですが……

祖先をたどると
じつにさまざまな
人間と人間の組み合わせから
次の世代が生まれていることが
わかるはずですよ

人間は外見的特徴で
キツパリと分けられるものではなく
グラデーションのように
少しずつ違いがあるものなんです

そうしたとき
「●●人種」と縦割りに
分類できるものでは
ないことがわかります

それでも
人は人間を
分類しようとしています

誰が何のために
どのように
分けるのでしょうか?

これを
追いつけることで
様々な発見が
ありました



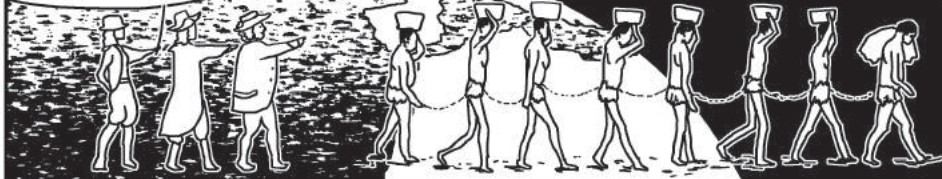
近代の欧米では
奴隷制や先住民支配など
他のいろいろな大陸の人々を
「野蛮」で「劣等」な
人種として
長く支配しました

明らかに
自分たちとは
見た目の違う
「他者」

そしてこれを
「支配」する
という関係……

人間を皮膚の色で
分類しようという分け方は
植民地時代からの
「環大西洋的な世界観」で
つくられた考え方でした

つまり
「人種」とは
支配側の都合による
分類だったのです!



そのように西洋では
人間は肌の色により
分類されてきましたが
日本では昔から
人間を肌の色で分けていた
わけではないんですね

安土桃山時代から江戸初期の
南蛮屏風の絵に描かれた
スペインやポルトガルの
宣教師たちの特徴について

目や鼻の形は意識していたのに
肌の色にはそんなに
こだわって描き分けがされて
いなかったということも
わかっています

気にしていた
ポイントが
違うんですね!



しかし日本では昔から
生まれながらの職業や
「血」にこだわった
差別がありました

その社会によって
「他者」の分類基準が
違うんですね

また
中世の日本とヨーロッパの
被差別民に対する
差別の構造には
とても似ている部分も
あるんです

離れた場所でも
同じような差別が
発生するなんて……

違うところや
似ているところを
比べて考えたり……
この分野の研究から
人間そのものについて
いろいろなものを
感じますね!



このような私たち
「環太平洋的な世界観」
から考える人種を
現在の欧米中心の
人種理論とつなげて
いきたいと思っています

日本やアジアの
視点を活かして
欧米中心の理論を
揺るがす発見が
まだまだあるはずです!

女性や異文化出身など
マイノリティの視点が
ますます重要になる時代です

さらに研究が
広がっていく
ことでしょう

